



① 有田区

凡例	
● 市役所	津波災害警戒区域
○ 居住誘導区域	内水被害実績箇所
□ 都市機能誘導区域	土砂災害警戒区域
□ 誘導重点区域	土砂災害特別警戒区域
□ 地域自治区	ため池浸水想定区域
人口分布 250mメッシュ	なだれ危険箇所
R2年 総人口密度	垂直避難困難
40人/ha以上	垂直避難可能
洪水浸水想定区域	要配慮者施設
5.0m以上	水害緊急避難場所
3.0m以上～5.0m未満	土砂災害緊急避難場所
0.5m以上～3.0m未満	津波緊急避難場所
0.5m未満	
家屋倒壊等危険想定区域	
河岸侵食	
氾濫流	

図中番号凡例

①-1	洪水災害(計画規模)
①-2	洪水災害(想定最大規模)
①-3	多段階浸水被害(降雨確率)
②	土砂災害
③	津波災害
④	内水災害
⑤	ため池災害
⑥	なだれ災害

誘導区域内  
誘導区域外

災害リスクが高いエリア  
一定の災害リスクは存在するが、人口密度が低いエリア

※災害ハザードのうち「①-3多段階浸水被害」は図示していません。

表 災害リスクの整理 (⑩有田区)

災害ハザード	災害リスク	含まれる誘導区域(*)			
		居	都	重	外
①-1 洪水災害 (計画規模)	区西部の市街地において、洪水による浸水被害のおそれがあり、人口密度が高く垂直避難が困難なエリアが大きく広がり、エリア内に多くの要配慮者施設も立地しており災害リスクが高い。 また、区東部の集落部においても人口密度は高くないものの、同様に災害リスクが比較的高いエリアが見られる。	●	●	—	—
①-2 洪水災害 (想定最大規模)	上記計画規模と同様のエリアとともに、区南部においても一部浸水深が0.5m以上～3.0m未満に該当し、かつ高齢者人口割合が高く、垂直避難が困難なエリアがあり災害リスクが高い。	●	●	—	●
①-3 多段階 浸水被害 (降雨確率)	区北部において現況から短期にかけて中頻度以上で浸水深0.5m以上の浸水想定区域が広がり、人口密度及び高齢者人口割合も高く、また要配慮者施設も多く立地しており災害リスクが高い。 浸水深3.0m以上となる中低頻度以上の災害リスクは区内には見当たらない。	●	—	—	—
② 土砂災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
③ 津波災害	関川、保倉川河口部において津波災害警戒区域と高齢者人口割合の高いエリアが重複しており、また要配慮者施設も多く立地することから災害リスクが高い。	●	—	—	—
④ 内水災害	区北西部の市街地内において内水浸水実績箇所と高齢者人口割合が高いエリアの重複が見られる。	●	—	—	—
⑤ ため池災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—
⑥ なだれ災害	災害リスクは存在しない。	—	—	—	—

(\*) 居:居住誘導区域、都:都市機能誘導区域、重:誘導重点区域、外:誘導区域外、—:該当なし

【居住誘導区域内の災害リスクについて】

区西部に指定された居住誘導区域内において、洪水・津波・内水災害に関し浸水区域と人口密度、高齢者人口割合が高いエリア及び垂直避難困難のエリアがあり災害リスクが高い。